

学校コード F123110106429

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**事前伺い**

注2

名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻（博士後期課程）

## 【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人東海国立大学機構  
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

経営企画部経営企画課

職名・氏名

課長・<sup>ウスバ</sup>薄葉 <sup>ヒロキ</sup>拓樹

電話番号

052-789-5698

（夜間）

同上

e-mail

sougoukikakusitu1@adm.nagoya-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 医学系研究科

＜総合保健学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	35

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人東海国立大学機構

## (2) 大学名

名古屋大学大学院

## (3) 調査対象大学等の位置

〒461-8673  
愛知県名古屋市東区大幸南一丁目1番20号  
(〒464-8601  
愛知県名古屋市千種区不老町)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長 <del>学長</del>	( マツオ セイイチ ) 松尾清一 (平成27年4月)		変更理由：大学総括理事を置いたため 変更年月日：令和4年4月1日 (4)
大学総括理事		( スギヤマ ナオシ ) 杉山直 (令和4年4月)	変更理由：新規就任のため 変更年月日：令和4年4月1日 (4)
学部長	( カドマツ ケンジ ) 門松健治 (平成29年4月)	( キムラ ヒロシ ) 木村宏 (令和4年4月)	変更理由：任期満了のため 変更年月日：令和4年4月1日 (4)
学科長等	( ホウシヤマ ミノル ) 寶珠山稔 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医学系研究科 総合保健学専攻 博士(看護学) 博士(医療技術学) 博士(リハビリテーション療法)	保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	3 年	20 人	- 人	60 人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-	-	-	-	20	-	20	-	20	-	-	-	0.86倍	-倍	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	23	(-)	19	(-)	21	(-)	(-)				
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	19	(-)	19	(-)	21	(-)	(-)				
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	19	(-)	16	(-)	17	(-)	(-)				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	19	(-)	16	(-)	17	(-)	(-)				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	0.95	-	0.80	-	0.85	-	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考			
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
1年次	-	-	-	-	19	-	16	-	17	-				
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ 2 ]	[ - ]				
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )				
2年次	/		-	-	-	-	18	-	16	-				
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]			
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )			
3年次	/		/		-	-	-	-	18	-				
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]		
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )		
4年次	/		/		/		-	-	-	-				
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-	19	-	34	-	51	-				
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ 2 ]	[ - ]				
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	19 人	1 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	1 人	0 人	他大学への入学のため(1名)
令和3年度	34 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	51 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{19} = \boxed{5.26} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{34} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{51} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

＜医学系研究科総合保健学専攻 博士後期課程＞

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	基礎医科学実習	1・2通		2		1						
	小計(1科目)		0	2	0	1	0	0	0	0	0	0
専門科目	コース共通科目	先端生命情報学特講	1前	2		1	2					
		先端生命情報学特講演習	1後	2		1	2					
		先端社会健康情報学特講	1前	2		1	2					
		先端社会健康情報学特講演習	1後	2		1	2					
		保健医療データ活用法特講	1前	2		2	2					
	看護学コース	看護システム・ケア開発学特講★	1前	2		2	2					
		看護システム・ケア開発学特講演習	1後	2		2	2		2			
		高度実践看護開発学特講★	1前	2		2	2	1	1			
		高度実践看護開発学特講演習	1後	2		2	2	1	1			
		次世代育成看護学特講★	1前	2		3	2					
		次世代育成看護学特講演習	1後	2		3	2					
		地域包括ケア開発看護学特講★	1前	2		2	2					
		地域包括ケア開発看護学特講演習	1後	2		2	2					
	医療技術学コース	医用画像工学特講●	1前	2		1	2					
		医用画像工学特講演習	1後	2		1	2					
		医用画像解析学特講●	1前	2		2		2				
		医用画像解析学特講演習	1後	2		2		2				
		医用量子科学特講●	1前	2		1	2					
		医用量子科学特講演習	1後	2		1	2					
		医用機能画像評価学特講●	1前	2		2	1					
		医用機能画像評価学特講演習	1後	2		2	1					
		生体防御情報科学特講●	1前	2		2	1					
		生体防御情報科学特講演習	1後	2		2	1					
		病態情報科学特講●	1前	2		2	1					
		病態情報科学特講演習	1後	2		2	1					
		細胞遺伝子情報科学特講●	1前	2		3	1					
		細胞遺伝子情報科学特講演習	1後	2		3	1					
	生体分子情報科学特講●	1前	2		1	2						
	生体分子情報科学特講演習	1後	2		1	2						
	リハビリテーション療法学コース	リハビリテーション療法学特講Ⅰ	1前	2		4	1					
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ	1前	2		4	1	1				
		リハビリテーション研究実践特講セミナー■	1後・2前	2		8	2	1	5			
	小計(32科目)	-	0	64	0	30	21	4	8	0	0	
	特別研究	1・2通	4			29	21	4	0	0	0	
	小計(1科目)	-	4	0	0	29	21	4	0	0	0	
	合計(34科目)	-	4	66	0	30	21	4	8	0	0	

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。

(履修方法)

・看護学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(★印)から2単位以上、修得しなければならない。

・医療技術学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(●印)から2単位以上、修得しなければならない。

・リハビリテーション療法学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(■印)から2単位以上、修得しなければならない。

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤科目	基礎医科学実習	1・2通		2		1					
	小計(1科目)		0	2	0	1	0	0	0	0	0
専門科目	コース共通科目	先端生命情報学特講	1前	2		0	2				
		先端生命情報学特講演習	1後	2		0	2				
		先端社会健康情報学特講	1前	2		0	2				
		先端社会健康情報学特講演習	1後	2		0	2				
		保健医療データ活用法特講	1後	2		0	3				
	看護学コース	看護システム・ケア開発学特講★	1前	2		1	1	2	1		
		看護システム・ケア開発学特講演習	1後	2		1	1	2	1		
		高度実践看護開発学特講★	1前	2		0	1	3	2		
		高度実践看護開発学特講演習	1後	2		0	1	3	2		
		次世代育成看護学特講★	1前	2		3	3				
		次世代育成看護学特講演習	1後	2		3	3				
		地域包括ケア開発看護学特講★	1前	2		2	1				
		地域包括ケア開発看護学特講演習	1後	2		2	1				
	医療技術学コース	医用画像工学特講●	1前	2		1	2				
		医用画像工学特講演習	1後	2		1	2				
		医用画像解析学特講●	1前	2		1	1	2			
		医用画像解析学特講演習	1後	2		1	1	2			
		医用量子科学特講●	1前	2		0	2				
		医用量子科学特講演習	1後	2		0	2				
		医用機能画像評価学特講●	1前	2		2	1				
		医用機能画像評価学特講演習	1後	2		2	1				
		生体防御情報科学特講●	1前	2		2	1				
		生体防御情報科学特講演習	1後	2		2	1				
		病態情報科学特講●	1前	2		1	1				
		病態情報科学特講演習	1後	2		1	1				
		細胞遺伝子情報科学特講●	1前	2		3	1				
		細胞遺伝子情報科学特講演習	1後	2		3	1				
	生体分子情報科学特講●	1前	2		1	2	1				
	生体分子情報科学特講演習	1後	2		1	2					
	リハビリテーション療法学コース	リハビリテーション療法学特講Ⅰ	1前	2		3	1				
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ	1前	2		3	1	2			
		リハビリテーション研究実践特講セミナー■	1後・2前	2		6	2	2	6		
	小計(32科目)	-	0	64	0	21	21	10	9	0	0
	特別研究		4			21	21	10	0	0	0
	小計(1科目)		4	0	0	21	21	10	0	0	0
	合計(34科目)	-	4	66	0	21	21	10	9	0	0

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。

(履修方法)

・看護学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(★印)から2単位以上、修得しなければならない。

・医療技術学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(●印)から2単位以上、修得しなければならない。

・リハビリテーション療法学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(■印)から2単位以上、修得しなければならない。

【令和2年度】

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	基礎医科学実習	1・2通		2		1						
	小計(1科目)		0	2	0	1	0	0	0	0	0	0
専門科目	コース共通科目	先端生命情報学特講	1前	2		1	2					
		先端生命情報学特講演習	1後	2		1	2					
		先端社会健康情報学特講	1前	2		1	2					
		先端社会健康情報学特講演習	1後	2		1	2					
		保健医療データ活用特講	1前	2		2	3					
	看護学コース	看護システム・ケア開発学特講★	1前	2		1	2	1	2			
		看護システム・ケア開発学特講演習	1後	2		1	2	1	2			
		高度実践看護開発学特講★	1前	2		2	1	1	2			
		高度実践看護開発学特講演習	1後	2		2	1	1	2			
		次世代育成看護学特講★	1前	2		3	3					
		次世代育成看護学特講演習	1後	2		3	3					
		地域包括ケア開発看護学特講★	1前	2		2	3					
		地域包括ケア開発看護学特講演習	1後	2		2	3					
	医療技術学コース	医用画像工学特講●	1前	2		1	2					
		医用画像工学特講演習	1後	2		1	2					
		医用画像解析学特講●	1前	2		1	1	2				
		医用画像解析学特講演習	1後	2		1	1	2				
		医用量子科学特講●	1前	2		1	2					
		医用量子科学特講演習	1後	2		1	2					
		医用機能画像評価学特講●	1前	2		2	1					
		医用機能画像評価学特講演習	1後	2		2	1					
		生体防御情報科学特講●	1前	2		2	1					
		生体防御情報科学特講演習	1後	2		2	1					
		病態情報科学特講●	1前	2		1	1					
		病態情報科学特講演習	1後	2		1	1					
		細胞遺伝子情報科学特講●	1前	2		3	1					
		細胞遺伝子情報科学特講演習	1後	2		3	1					
	生体分子情報科学特講●	1前	2		1	2						
	生体分子情報科学特講演習	1後	2		1	2						
	リハビリテーション学コース	リハビリテーション療法学特講Ⅰ	1前	2		4	1					
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ	1前	2		4	1	1				
		リハビリテーション研究実践特講セミナー■	1後・2前	2		8	2	2	6			
小計(32科目)		0	64	0	27	24	6	10	0	0		
特別研究	1・2通	4			27	24	5	0	0	0		
小計(1科目)		4	0	0	27	24	5	0	0	0		
合計(34科目)		4	66	0	27	24	6	10	0	0		

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。

(履修方法)

・看護学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(★印)から2単位以上、修得しなければならない。

・医療技術学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(●印)から2単位以上、修得しなければならない。

・リハビリテーション療法学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(■印)から2単位以上、修得しなければならない。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤科目	基礎医科学実習	1・2通		2		1					
	小計(1科目)		0	2	0	1	0	0	0	0	0
専門科目	コース共通科目	先端生命情報学特講	1前	2		1	2				
		先端生命情報学特講演習	1後	2		1	2				
		先端社会健康情報学特講	1前	2		1	2				
		先端社会健康情報学特講演習	1後	2		1	2				
		保健医療データ活用特講	1前	2		2	3				
	看護学コース	看護システム・ケア開発学特講★	1前	2		1	2	1	2		
		看護システム・ケア開発学特講演習	1後	2		1	2	1	2		
		高度実践看護開発学特講★	1前	2		2	1	2	2		
		高度実践看護開発学特講演習	1後	2		2	1	2	2		
		次世代育成看護学特講★	1前	2		3	3				
		次世代育成看護学特講演習	1後	2		3	3				
		地域包括ケア開発看護学特講★	1前	2		2	3				
		地域包括ケア開発看護学特講演習	1後	2		2	3				
	医療技術学コース	医用画像工学特講●	1前	2		1	2				
		医用画像工学特講演習	1後	2		1	2				
		医用画像解析学特講●	1前	2		1	1	2			
		医用画像解析学特講演習	1後	2		1	1	2			
		医用量子科学特講●	1前	2		1	2				
		医用量子科学特講演習	1後	2		1	2				
		医用機能画像評価学特講●	1前	2		2	1				
		医用機能画像評価学特講演習	1後	2		2	1				
		生体防御情報科学特講●	1前	2		2	1				
		生体防御情報科学特講演習	1後	2		2	1				
		病態情報科学特講●	1前	2		1	1				
		病態情報科学特講演習	1後	2		1	1				
		細胞遺伝子情報科学特講●	1前	2		3	1				
		細胞遺伝子情報科学特講演習	1後	2		3	1				
	生体分子情報科学特講●	1前	2		1	2					
	生体分子情報科学特講演習	1後	2		1	2					
	リハビリテーション学コース	リハビリテーション療法学特講Ⅰ	1前	2		4	1				
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ	1前	2		3	1	2			
		リハビリテーション研究実践特講セミナー■	1後・2前	2		7	2	2	6		
小計(32科目)		0	64	0	26	24	7	10	0	0	
特別研究	1・2通	4			26	24	7	0	0	0	
小計(1科目)		4	0	0	26	24	7	0	0	0	
合計(34科目)		4	66	0	26	24	7	10	0	0	

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。

(履修方法)

・看護学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(★印)から2単位以上、修得しなければならない。

・医療技術学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(●印)から2単位以上、修得しなければならない。

・リハビリテーション療法学コース

基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。ただし、専門科目の授業科目(■印)から2単位以上、修得しなければならない。

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。

・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を

黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。

・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。

・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。

・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。



(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和2年度】**

- ・新規採用により、「保健医療データ活用法特講」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・退職および昇任により、「看護システム・ケア開発学特講」の専任教員等の配置を「教授2、准教授2」から「教授1、准教授2、講師1、助教2」に変更。
- ・退職および昇任により、「看護システム・ケア開発学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授2、助教2」から「教授1、准教授2、講師1、助教2」に変更。
- ・退職および新規採用により、「高度実践看護開発学特講」および「高度実践看護開発学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授2、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・新規採用により、「次世代育成看護学特講」および「次世代育成看護学特講演習」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・新規採用により、「地域包括ケア開発看護学特講」および「地域包括ケア開発看護学特講演習」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・退職および新規採用により、「医用画像解析学特講」および「医用画像解析学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授0」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・退職および新規採用により、「病態情報科学特講」および「病態情報科学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・新規採用及び担当教員昇任により、「リハビリテーション研究実践特講セミナー」の専任教員等の配置を「教授8、准教授2、講師1、助教5」から「教授8、准教授2、講師2、助教6」に変更。
- ・退職および新規採用により、「特別研究」の専任教員等の配置を「教授29、准教授21、講師4」から「教授27、准教授24、講師5」に変更。

**【令和3年度】**

- ・カリキュラム充実により、「高度実践看護開発学特論」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1、講師1、助教2」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・カリキュラム充実により、「高度実践看護開発学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・退職により、「リハビリテーション療法学特講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4、准教授1、講師1」から「教授3、准教授1、講師2」に変更。
- ・退職により、「リハビリテーション研究実践特講セミナー」の専任教員等の配置を「教授8、准教授2、講師2、助教6」から「教授7、准教授2、講師2、助教6」に変更。

**【令和4年度】**

- ・退職により、「先端生命情報学特講」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授0、准教授2」に変更。
- ・退職により、「先端生命情報学特講演習」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授0、准教授2」に変更。
- ・退職により、「先端社会健康情報学特講」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授0、准教授2」に変更。
- ・退職により、「先端社会健康情報学特講演習」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授0、准教授2」に変更。
- ・退職および担当変更により、「保健医療データ活用法特講」の開設年次を「1前」から「1後」に変更、専任教員等の配置を「教授2、准教授3」から「教授0、准教授3」に変更。
- ・昇任及び退職により、「看護システム・ケア開発学特講」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2、講師1、助教2」から「教授1、准教授1、講師2、助教1」に変更。
- ・昇任及び退職により、「看護システム・ケア開発学特講演習」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2、講師1、助教2」から「教授1、准教授1、講師2、助教1」に変更。
- ・新規採用及び昇任及び退職により、「高度実践看護開発学特講」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1、講師2、助教2」から「教授0、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・新規採用及び昇任及び退職により、「高度実践看護開発学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1、講師2、助教2」から「教授0、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・退職により、「地域包括ケア開発看護学特講」の専任教員等の配置を「教授2、准教授3」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・退職により、「地域包括ケア開発看護学特講演習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授3」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・退職により、「医用量子科学特講」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授0、准教授2」に変更。
- ・退職により、「医用量子科学特講演習」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授0、准教授2」に変更。
- ・カリキュラム充実により「生体分子情報科学特講」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授1、准教授2、講師1」に変更。
- ・退職により、「リハビリテーション療法学特講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授4、准教授1」から「教授3、准教授1」に変更。
- ・退職により、「リハビリテーション研究実践特講セミナー」の専任教員等の配置を「教授7、准教授2、講師2、助教6」から「教授6、准教授2、講師2、助教6」に変更。
- ・就任、昇任及び退職により、「特別研究」の専任教員等の配置を「教授26、准教授24、講師7」から「教授21、准教授21、講師10」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	33 科目	0 科目	34 科目	1 科目 [ 0 ]	33 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	34 科目 [ 0 ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。 (記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{34} = \boxed{\phantom{00}}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	663,614 628,131㎡	0㎡	0㎡	663,614 628,131㎡	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	運動場用地	90,010 <del>89,165</del> 105,775㎡	0㎡	0㎡	90,010 <del>89,165</del> 105,775㎡			
	小 計	753,624 <del>752,779</del> 733,906㎡	0㎡	0㎡	753,624 <del>752,779</del> 733,906㎡			
	そ の 他	2,424,411 <del>2,425,466</del> 2,450,356 2,507,329㎡	0㎡	0㎡	2,424,411 <del>2,425,466</del> 2,450,356 2,507,329㎡			
	合 計	3,178,035 <del>3,178,245</del> 3,184,262 3,241,226㎡	0㎡	0㎡	3,178,035 <del>3,178,245</del> 3,184,262 3,241,226㎡			
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	497,125 <del>463,980</del> 590,883㎡ (497,125 <del>463,980</del> 590,883㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	497,125 <del>463,980</del> 590,883㎡ (497,125 <del>463,980</del> 590,883㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	246 <del>248</del> 235 252室	87 <del>89</del> 243 232室	1,314 <del>1,225</del> 1,687 1,680室	27 25 (補助職員 1人)	10 14室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	医学系研究科 総合保健学専攻			82 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	医学系研究科 総合保健学専攻	39,133 [4,721] <del>(39,133 [4,721])</del> <del>(48,917 [7,564])</del> (49,641 [7,645])	1,231 [193] <del>(1,231 [193])</del> <del>(1,091 [179])</del> (1,093 [179])	21,486 [21,416] <del>(21,486 [21,416])</del> <del>(22,660 [22,588])</del> (22,660 [22,588])	614 <del>(614)</del> <del>(649)</del> (615)	0 0	0 0	
	計	39,133 [4,721] <del>(39,133 [4,721])</del> <del>(48,917 [7,564])</del> (49,641 [7,645])	1,231 [193] <del>(1,231 [193])</del> <del>(1,091 [179])</del> (1,093 [179])	21,486 [21,416] <del>(21,486 [21,416])</del> <del>(22,660 [22,588])</del> (22,660 [22,588])	614 <del>(614)</del> <del>(649)</del> (615)	0 0	0 0	
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	28,681 ㎡ 24,829 ㎡	2,173 2,175 2,195 2,031席		2,040 3,158,000 3,140,500 冊				
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	9,236 9,229㎡	弓道場、プール(25m×7コース)、陸上競技場(400mトラック)、テニスコート(11面)、野球場(1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場(各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	岐阜大学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
<学部>											
教育学部	4	220	—	940	学士(教育学)	1.05	1.06	—	昭和41	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
学校教育教員養成課程	4	220	—	940	学士(教育学)	1.05	1.06	—	平成10	同上	定員変更(▲30)
特別支援学校教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	—	—	平成19	同上	令和2年度学生募集停止
地域科学部	4	100	3年次10	420	学士(地域科学)	1.05	1.04	—	平成8	岐阜県岐阜市柳戸1番1	地域科学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
地域政策学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	—	—	—	平成18	同上	
地域文化学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	—	—	—	平成18	同上	
医学部	4・6	190	—	980	学士(医学又は看護学)	1.00	1.00	—	昭和39	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医学科	6	110	—	660	学士(医学)	0.99	0.97	令和4	昭和39	同上	定員変更(25)
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.01	1.04	—	平成12	同上	令和2年度学生募集停止(3年次編入学)
工学部	4	510	3年次30	2,100	学士(工学)	1.03	1.03	—	昭和27	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
社会基盤工学科	4	60	3年次10	260	学士(工学)	1.03	1.00	—	平成14	同上	
機械工学科	4	130	3年次10	540	学士(工学)	1.04	1.02	—	平成25	同上	
化学・生命工学科	4	150	3年次2	604	学士(工学)	1.03	1.04	—	平成25	同上	
電気電子・情報工学科	4	170	3年次8	696	学士(工学)	1.02	1.04	—	平成25	同上	
応用生物科学部	4・6	190	3年次10	840	学士(応用生物科学)	1.05	1.07	—	平成16	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
応用生命科学課程	4	80	3年次5	330	学士(応用生物科学)	1.04	1.09	—	平成23	同上	
生産環境科学課程	4	80	3年次5	330	学士(応用生物科学)	1.07	1.06	—	平成16	同上	
共同獣医学科	6	30	—	180	学士(獣医学)	1.04	1.03	—	平成25	同上	
獣医学課程	6	—	—	—	学士(獣医学)	—	—	—	平成16	同上	平成25年度学生募集停止
社会システム経営学環	4	30	—	60	学士(経営学)	1.07	1.07	—	令和3	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和3年度新設
大学合計	—	1,240	3年次50	5,340							

大学の名称	岐阜大学大学院						学生募集停止学科数	8	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	3	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
<b>教育学研究科</b>	—	—	—	—	—	—	—	—	平成7	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	—	—	25	教職修士(専門職)	—	—	—	平成20	同上	令和4年度学生募集停止
心理発達支援専攻 (修士課程)	2	—	—	10	修士(教育学)	—	—	—	平成20	同上	令和4年度学生募集停止
総合教科教育専攻 (修士課程)	2	—	—	34	修士(教育学)	—	—	—	平成25	同上	令和4年度学生募集停止
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	40	教職修士(専門職)	0.88	0.88	—	令和4	同上	令和4年度新設 専攻の設置
教育臨床心理学専攻 (修士課程)	2	5	—	5	修士(教育学)	1.2	1.2	—	令和4	同上	令和4年度新設 専攻の設置
<b>地域科学研究科</b>	—	—	—	—	—	—	—	—	平成13	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
地域政策専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(地域科学)	0.34	0.42	—	平成13	同上	
地域文化専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(地域科学)	1.38	1.00	—	平成13	同上	
<b>医学系研究科</b>	—	—	—	—	—	—	—	—	平成17	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医科学専攻 (博士課程)	4	47	—	188	博士(医学)	0.84	1.11	—	平成14	同上	
再生医科学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(再生医科学)	—	—	—	平成14	同上	平成31年度学生募集停止
看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(看護学)	1.00	1.00	—	平成17	同上	
医療者教育学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士(医療者教育学)	1.00	1.00	—	令和2	同上	
<b>工学研究科</b>	—	—	—	—	—	—	—	—	昭和42	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生産開発システム工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度学生募集停止
電子情報システム工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度学生募集停止
環境エネルギーシステム専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成11	同上	平成31年度学生募集停止
工学専攻 (博士課程)	3	23	—	69	博士(工学)	0.77	0.48	—	平成31	同上	
岐阜大学・イント工科大学クワ ハティ校国際連携統合機械工学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	0.83	0.50	—	平成31	同上	
岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	1.00	1.00	—	平成31	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
自然科学技術研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成29	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生命科学・化学専攻 (修士課程)	2	74	—	148	修士(工学または応用生物科学)	1.48	1.50	—	平成29	同上	
生物生産環境科学専攻 (修士課程)	2	42	—	84	修士(応用生物科学)	1.11	1.12	—	平成29	同上	
環境社会基盤工学専攻 (修士課程)	2	29	—	58	修士(工学)	0.95	0.76	—	平成29	同上	
物質・ものづくり工学専攻 (修士課程)	2	67	—	134	修士(工学)	1.24	1.30	—	平成29	同上	
知能理工学専攻 (修士課程)	2	81	—	162	修士(工学)	1.20	1.28	—	平成29	同上	
エネルギー工学専攻 (修士課程)	2	72	—	144	修士(工学)	1.21	1.13	—	平成29	同上	
岐阜大学・インド工科大学クワ ハティ校国際連携食品科学技術専 攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士(食品科学技術)	0.20	0.10	—	平成31	同上	
共同獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成31	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
共同獣医学専攻 (博士課程)	4	6	—	24	博士(獣医学)	0.88	0.83	—	平成31年度	同上	
連合農学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成3	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生物生産科学専攻 (博士課程)	3	7	—	21	博士(農学)	0.81	0.71	—	平成3	同上	
生物環境科学専攻 (博士課程)	3	5	—	15	博士(農学)	0.53	0.40	—	平成3	同上	
生物資源科学専攻 (博士課程)	3	6	—	18	博士(農学)	1.57	1.67	—	平成3	同上	
岐阜大学・インド工科大学クワ ハティ校国際連携食品科学技術専 攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	1.00	1.00	—	平成31	同上	
連合獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成2	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
獣医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(獣医学)	—	—	—	平成2	同上	平成31年度学生募集停止
連合創薬医療情報研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平成19	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
創薬科学専攻 (博士課程)	3	3	—	9	博士(工学または薬科学)	0.44	0.33	—	平成19	同上	
医療情報学専攻 (博士課程)	3	3	—	9	博士(薬科学または薬科学)	0.67	0.67	—	平成19	同上	
研究科合計											
修士課程	—	414	—	867	—	—	—	—	—	—	
博士課程	—	106	—	371	—	—	—	—	—	—	
専門職学位課程	—	40	—	65	—	—	—	—	—	—	



大学の名称	名古屋大学					学生募集停止学科数	7	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍		年度		
文学部	4	125	3年次10	520	学士(文学)	1.04	1.03	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人文学科	4	125	3年次10	520	学士(文学)	1.04	1.03	—	平成8	同上	
教育学部	4	65	3年次10	280	学士(教育学)	1.09	1.10	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士(教育学)	1.09	1.10	—	平成9	同上	
法学部	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.06	1.03	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.06	1.03	—	平成9	同上	
経済学部	4	205	3年次10	840	学士(経済学)	1.04	1.02	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
経済学科	4	140	—	560	学士(経済学)	—	—	—	昭和24	同上	
経営学科	4	65	—	260	学士(経済学)	—	—	—	昭和24	同上	
学部共通	—	—	3年次10	20	学士(経済学)	—	—	—	—	同上	
情報文化学部	4	—	—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	平成5	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
自然情報学科	4	—	—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	平成5	同上	
社会システム情報学科	4	—	—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	平成5	同上	
学部共通	—	—	3年次—	—	学士(情報文化学)	—	—	—	—	同上	
情報学部	4	135	3年次10	560	学士(情報学)	1.04	1.08	—	平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1	
自然情報学科	4	38	3年次4	160	学士(情報学)	1.04	1.05	—	平成29	同上	
人間・社会情報学科	4	38	3年次4	160	学士(情報学)	0.99	1.02	—	平成29	同上	
コンピュータ科学科	4	59	3年次2	240	学士(情報学)	1.07	1.13	—	平成29	同上	
理学部	4	270	—	1,080	学士(理学)	1.06	1.03	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
数理学科	4	55	—	220	学士(理学)	—	—	—	平成7	同上	
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)	—	—	—	昭和24	同上	
化学科	4	50	—	200	学士(理学)	—	—	—	昭和24	同上	
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)	—	—	—	平成8	同上	
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)	—	—	—	平成4	同上	
医学部	4・6	307	2年次4	1,461	学士(医学)	1.02	1.03	令和4年度	昭和24	—	
医学科	6	107	2年次4	661	学士(医学)	1.02	1.04	令和4年度	昭和24	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	令和4年度入学定員増(7人)、編入学定員変更(3年次5名→2年次4名)
保健学科	4	200	—	800	学士(看護学)	1.04	1.03	—	平成9	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
工学部	4	680	—	2,720	学士(工学)	1.02	1.02	—	昭和24	愛知県名古屋市千種区不老町1	
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成8	同上	平成29年度より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成9	同上	平成29年度より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成7	同上	平成29年度より学生募集停止
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成6	同上	平成29年度より学生募集停止
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成8	同上	平成29年度より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	—	396	学士(工学)	1.02	1.00	—	平成29	同上	
物理工学科	4	83	—	332	学士(工学)	1.02	1.04	—	平成29	同上	
マテリアル工学科	4	110	—	440	学士(工学)	1.02	1.03	—	平成29	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍	倍		年度	
電気電子情報工学科	4	118	—	472	学士(工学)	1.00	1.00	—	平成29	同上
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	600	学士(工学)	1.01	1.00	—	平成29	同上
エネルギー理工学科	4	40	—	160	学士(工学)	1.04	1.05	—	平成29	同上
環境土木・建築学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.03	1.03	—	平成29	同上
農学部	4	170	—	680	学士(農学)	1.06	1.03	—	昭和26	愛知県名古屋市千種区不老町1
生物環境科学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.04	1.02	—	平成18	同上
資源生物科学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.05	1.05	—	平成18	同上
応用生命科学科	4	80	—	320	学士(農学)	1.08	1.02	—	平成18	同上
大学全体	—	2,107	3年次 50 2年次 4	8,761	—	—	—	—	—	—

大学の名称	名古屋大学大学院					学生募集停止学科数	32	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	8	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
文学研究科									昭和28 平成12	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
人文学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(歴史学)	—	—	—			
人文学研究科									平成29 平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
人文学専攻 (博士前期課程)	2	104	—	208	修士(文学) 修士(歴史学) 修士(学術)	1.03	1.03	—			
(博士後期課程)	3	61	—	183	博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	0.57	0.31	—			
教育発達科学研究科									昭和28 平成12	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学) 修士(教育)	0.84	0.75	—			
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(教育学) 博士(教育)	0.78	0.81	—			
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.88	0.81	—	平成12	同上	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.99	1.06	—			
法学研究科									昭和28 平成16	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	1.21	0.94	—			
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.58	0.52	—			
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.84	1.14	—	平成16	同上	
経済学研究科									昭和28 平成12	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学)	1.01	1.10	—			
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.46	0.53	—			
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	0.96	1.07	—	平成12	同上	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.09	0.00	—			
情報学研究科									平成29 平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	1.28	1.42	—			
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(情報学) 博士(学術)	0.75	1.50	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(情報学) 修士(学術)	1.17	1.16	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(情報学) 博士(学術)	0.58	0.75	—			
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(情報学) 修士(学術)	0.83	0.72	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(情報学) 博士(学術)	0.53	0.60	—			
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(情報学) 修士(学術)	0.89	0.93	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(情報学) 博士(学術)	0.75	0.85	—			

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(情報学) 修士(学術)	1.03	1.00	—	平成29	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(情報学) 博士(学術)	0.51	0.77	—			
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	58	修士(情報学) 修士(学術)	1.56	1.37	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(情報学) 博士(学術)	1.76	1.00	—			
<b>理学研究科</b>											
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成7	同上	令和4年度より学生募集停止
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	平成7	同上	令和4年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	平成8	同上	令和4年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—			
<b>理学専攻</b>											
(博士前期課程)	2	188	—	188	修士(理学)	0.97	0.97	—	令和4	同上	令和4年度より学生受入開始
(博士後期課程)	3	70	—	70	博士(理学)	0.57	0.57	—			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.16	0.00	—	平成28	同上	
<b>医学系研究科</b>											
総合医学専攻 (博士課程)	4	151	—	604	博士(医学)	1.10	0.99	—	昭和30 (平成14年度名称変更) 平成25	—	
名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.00	0.00	—	平成27	同上	
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.06	0.00	—	平成29	同上	
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士(医学)	0.00	0.00	—	平成30	同上	
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	0.80	0.65	—	平成13	同上	
医療行政コース 総合保健学専攻 (博士前期課程)	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00	0.00	—	令和2	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	2	70	—	140	修士(看護学) 修士(医療技術学)	0.88	0.94	—			
(博士後期課程)	3	20	—	60	修士(リハビリテーション療法) 博士(看護学) 博士(医療技術学)	0.86	0.85	—			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(看護学)	—	—	—	平成14	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(看護学)	—	—	—			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(医療技術学)	—	—	—	平成14	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(医療技術学)	—	—	—			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(リハビリテーション療法学)	—	—	—	平成14	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(リハビリテーション療法学)	—	—	—			
<b>工学研究科</b>											
機械理工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	昭和28 平成16	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
社会基盤工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	平成16	同上	平成29年度より学生募集停止
結晶材料工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—	昭和52 (平成16年 度再編)	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	0.99	1.02	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.78	0.62	—	平成29	同上	
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.05	0.97	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.74	0.62	—	平成29	同上	
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	1.01	1.00	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(工学)	0.88	1.33	—	平成29	同上	
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	1.08	1.02	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.55	0.44	—	平成29	同上	
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.99	1.02	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.33	0.33	—	平成29	同上	
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	0.98	1.05	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	22	博士(工学)	0.38	0.66	令和4年度			令和4年度入学定員減(△2人)
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(工学)	1.06	1.05	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	26	博士(工学)	0.93	0.37	令和4年度			令和4年度入学定員減(△1人)
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.24	1.35	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	22	博士(工学)	1.40	1.33	令和4年度			令和4年度入学定員減(△2人)
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.34	1.14	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.69	0.44	—	平成29	同上	
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	1.17	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	13	—	39	博士(工学)	1.12	0.92	—	平成29	同上	
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	66	修士(工学)	1.24	1.15	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.83	0.62	—	平成29	同上	
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(工学)	1.30	1.21	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(工学)	0.73	0.71	—	平成29	同上	
マイクロ・ナノ機械 理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.36	1.36	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.95	1.12	—	平成29	同上	
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(工学)	1.25	1.15	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.95	0.62	—	平成29	同上	
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.19	1.16	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	0.60	—	平成29	同上	
総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.02	1.11	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(工学)	0.58	0.00	—	平成29	同上	
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	0.98	0.91	—	平成29	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.77	0.22	—	平成29	同上	
名古屋大学・チュラロン コン大学国際連携サステイナ ブル材料工学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.00	0.00	—	令和4	同上	令和4年度より学生受 入開始
<b>生命農学研究科</b>									昭和30 (平成9年 度名称変 更)	愛知県名古屋市千種区不老町1	
生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	—	—	平成11	同上	平成30年度より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—	—	—			

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
森林・環境資源科学専攻									平成30	愛知県名古屋市千種区不老町1	
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(農学)	1.16	1.07	—			
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(農学)	1.05	0.83	—			
植物生産科学専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(農学)	1.35	1.40	—			
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	0.96	0.33	—			
動物科学専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.07	1.07	—			
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(農学)	0.85	0.85	—			
応用生命科学専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	66	—	132	修士(農学)	1.12	1.12	—			
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(農学)	0.56	0.50	—			
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻									平成30	同上	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(農学)	0.16	0.00	—			
名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学									平成31	同上	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(農学)	0.00	0.00	—			
国際開発研究科									平成3	愛知県名古屋市千種区不老町1	
国際開発専攻									平成3	同上	平成30年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
国際協力専攻									平成4	同上	平成30年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
国際コミュニケーション専攻									平成5	同上	平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
国際開発協力専攻									平成30	同上	
(博士前期課程)	2	44	—	88	修士(国際開発学)	1.11	1.27	—			
(博士後期課程)	3	22	—	66	修士(学術)	0.59	0.50	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(国際開発学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
多元数理科学研究科									平成7	愛知県名古屋市千種区不老町1	
多元数理科学専攻									平成7	同上	
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.09	1.06	—			
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.49	0.43	—			
国際言語文化研究科									平成10	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
日本語文化専攻									平成10	同上	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
国際多元文化専攻									平成10	同上	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—			
環境学研究科									平成13	愛知県名古屋市千種区不老町1	
地球環境科学専攻									平成13	同上	
(博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学)	0.91	0.92	—			
(博士後期課程)	3	24	—	72	修士(理学)	0.49	0.54	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(環境学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—			
都市環境学専攻									平成13	同上	
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学)	1.34	1.21	—			
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(工学)	0.39	0.42	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(建築学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(環境学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(建築学)	—	—	—			
社会環境学専攻									平成13	同上	
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学)	0.85	0.96	—			
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(社会学)	—	—	—			
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(地理学)	—	—	—			
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(法学)	—	—	—			
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(経済学)	—	—	—			

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度		
(博士後期課程)	3	13	—	39	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.81	1.15	—	平成15 平成15	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
情報科学研究科											
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	—	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—			
メディア科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成15	同上	
複雑系科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成15	同上	
社会システム情報学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成15	同上	
創薬科学研究科									平成24	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.12	1.15	—	平成24		
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	1.16	1.10	—	平成26		
大学院全体		2,455		5,515							
博士前期課程		1,643	—	3,098		—	—	—	—	—	
博士後期課程		571	—	1,573		—	—	—	—	—	
博士課程		161	—	644		—	—	—	—	—	
修士課程		30	—	50		—	—	—	—	—	
専門職学位課程		50	—	150		—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医学系研究科総合保健学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	寶珠山 稔 <令和2年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	教授	池松 裕子 <令和2年4月> 博士(学術)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	安藤 詳子 <令和2年4月> 博士(医学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	太田 勝正 <令和2年4月> 博士(医学)
		看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習
専	教授	本田 育美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	教授	浅野 みどり <令和2年4月> 博士(看護師)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	玉腰 浩司 <令和2年4月> 博士(医学)
		保健医療データ活用法特講 次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	入山 茂美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	林 登志雄 <令和2年4月> 医学博士
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	西谷 直子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	島本 佳寿広 <令和2年4月> 博士(医学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	寶珠山 稔 <令和2年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	教授	池松 裕子 <令和2年4月> 博士(学術)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	安藤 詳子 <令和2年4月> 博士(医学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	本田 育美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	教授	浅野 みどり <令和2年4月> 博士(看護師)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	玉腰 浩司 <令和2年4月> 博士(医学)
		保健医療データ活用法特講 次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	入山 茂美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	林 登志雄 <令和2年4月> 医学博士
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	西谷 直子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	島本 佳寿広 <令和2年4月> 博士(医学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	寶珠山 稔 <令和2年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	教授	池松 裕子 <令和2年4月> 博士(学術)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	安藤 詳子 <令和2年4月> 博士(医学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	本田 育美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	教授	浅野 みどり <令和2年4月> 博士(看護師)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	玉腰 浩司 <令和2年4月> 博士(医学)
		保健医療データ活用法特講 次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	入山 茂美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	林 登志雄 <令和2年4月> 医学博士
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	西谷 直子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	島本 佳寿広 <令和2年4月> 博士(医学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	寶珠山 稔 <令和2年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	教授	池松 裕子 <令和2年4月> 博士(学術)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	安藤 詳子 <令和2年4月> 博士(医学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	教授	本田 育美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	教授	浅野 みどり <令和2年4月> 博士(看護師)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	玉腰 浩司 <令和2年4月> 博士(医学)
		保健医療データ活用法特講 次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	入山 茂美 <令和2年4月> 博士(保健学)
		次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究
専	教授	林 登志雄 <令和2年4月> 医学博士
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	西谷 直子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究
専	教授	島本 佳寿広 <令和2年4月> 博士(医学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究











専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 奈津紀 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	川浦(山内) 稚代 <令和2年4月> 博士(医学) 博士(薬学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	藤井 啓輔 <令和2年4月> 博士(医療技術学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	星野 藍子 <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	助教	竹野 ゆかり <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習
専	助教	五十嵐 剛 <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法学)
		リハビリテーション研究実践特講 セミナー
専	助教	中西 啓介 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習
専	助教	杉村 鮎美 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習
専	助教	杉田 豊子 <令和2年4月> 修士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 奈津紀 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	川浦(山内) 稚代 <令和2年4月> 博士(医学) 博士(薬学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	藤井 啓輔 <令和2年4月> 博士(医療技術学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	星野 藍子 <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	講師	竹野 ゆかり <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	講師	五十嵐 剛 <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法学)
		リハビリテーション研究実践特講 セミナー
専	助教	中西 啓介 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	助教	杉村 鮎美 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 奈津紀 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	川浦(山内) 稚代 <令和2年4月> 博士(医学) 博士(薬学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	藤井 啓輔 <令和2年4月> 博士(医療技術学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	星野 藍子 <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	講師	竹野 ゆかり <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	講師	田中 晴佳 <令和3年4月> 博士(保健学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	五十嵐 剛 <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー
専	助教	中西 啓介 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	助教	杉村 鮎美 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 奈津紀 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	川浦(山内) 稚代 <令和2年4月> 博士(医学) 博士(薬学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	藤井 啓輔 <令和2年4月> 博士(医療技術学)
		医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究
専	講師	星野 藍子 <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	講師	竹野 ゆかり <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	講師	田中 晴佳 <令和3年4月> 博士(保健学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	五十嵐 剛 <令和2年4月> 博士(リハビリテーション療法学)
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講 セミナー 特別研究
専	講師	中西 啓介 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護システム・ケア開発学特講演習 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究
専	講師	杉村 鮎美 <令和2年4月> 博士(看護学)
		高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究
専	講師	林(栗田) 由美 <令和2年4月> 博士(医学)
		生体分子情報科学特講演習 特別研究



(1) -②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--	--	--

【令和2年度】

・令和2年	3月	太田勝正教授退職
・令和2年	3月	島本佳寿広教授退職
・令和2年	3月	長坂徹郎教授退職
・令和2年	3月	青石恵子准教授退職
・令和2年	3月	川井久美准教授退職
・令和2年	3月	杉田豊子助教退職
・令和2年	4月	大倉美佳准教授就任。
・令和2年	4月	松島秀准教授就任。
・令和2年	4月	池田勝秀准教授就任。
・令和2年	4月	バカリオ エビファニオ Jr. ティラ准教授就任。
・令和2年	4月	中島麻紀助教就任。
・令和2年	4月	杉村鮎美助教就任。
・令和2年	4月	奥村智志助教就任。
・令和2年	4月	立松典篤助教就任。
・令和2年	4月	佐野美沙子助教就任。
・令和2年	11月	五十嵐剛講師昇任。

【令和3年度】

・令和3年	3月	辛島千恵子教授退職。
・令和3年	4月	田中晴佳講師就任。
・令和3年	8月	森脇佳美助教就任。
・令和4年	3月	安藤詳子教授退職。
・令和4年	3月	池松裕子教授退職。
・令和4年	3月	山本誠一教授退職。
・令和4年	3月	山田純生教授退職。
・令和4年	3月	近藤高明教授退職。
・令和4年	3月	大島（佐伯）千佳准教授退職。
・令和4年	3月	大倉美佳准教授退職。
・令和4年	3月	淵田英津子准教授退職。

【令和4年度】

・令和4年	4月	杉村鮎美講師昇任。
・令和4年	4月	中西啓介講師昇任。
・令和4年	4月	林（栗田）由美講師就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
7	5	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
30	21	4	8	63	0	21	21	10	9	61	0
(27)	(24)	(5)	(11)	(67)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
55	0	0				52	0	0			
(56)	(0)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
21	21	10	9	61	0	22	24	10	9	65	0
[△9]	[0]	[6]	[1]	[△2]	[0]	[△8]	[3]	[6]	[1]	[2]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
52	0	0				56	0	0			
[△3]	[0]	[0]				[1]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{61}{63} = \boxed{96.82} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{61} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	島本 佳寿広	R2.3	選択	医用画像解析学特講	①	R2.3.31付け転職のため辞任（2）						
				選択	医用画像解析学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
2	教授	長坂 徹郎	R2.3	選択	病態情報科学特講	①	R2.3.31付け転職のため辞任（2）						
				選択	病態情報科学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
3	准教授	青石（長谷） 恵子	R2.3	選択	高度実践看護開発学特講	①	R2.3.31付け転職のため辞任（2）						
				選択	高度実践看護開発学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
4	准教授	川井 久美	R2.3	選択	病態情報科学特講	①	R2.3.31付け転職のため辞任（2）						
				選択	病態情報科学特講演習	①							
				選択	細胞遺伝子情報科学特講	①							
				必修	特別研究	①							
5	助教	杉田 豊子	R2.3	選択	高度実践看護開発学特講	①	R2.3.31付け転職のため辞任（2）						
				選択	高度実践看護開発学特講演習	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
5	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	12	科目	選択	12	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	16	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	辛島 千恵子	R3.3	選択	リハビリテーション療法学特講Ⅱ	①	R3.3.31付け転職のため辞任（3）						
				必修	リハビリテーション研究実践特講セミナー	①							
				必修	特別研究	①							
2	教授	池松 裕子	R4.3	選択	高度実践看護開発学特講	①	R4.3.31付け転職のため辞任（4）						
				選択	高度実践看護開発学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
3	教授	近藤 高明	R4.3	選択	先端生命情報学特講	①	R4.3.31付け転職のため辞任（4）						
				選択	先端生命情報学特講演習	①							
				選択	先端社会健康情報学特講	①							
				選択	先端社会健康情報学特講演習	①							
				選択	保健医療データ活用法特講	①							
				必修	特別研究	①							
4	准教授	大島 千佳	R4.3	選択	看護システム・ケア開発学特講	①	R4.3.31付け転職のため辞任（4）						
				選択	看護システム・ケア開発学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
5	准教授	大倉 美佳	R4.3	選択	地域包括ケア開発看護学特講	①	R4.3.31付け転職のため辞任（4）						
				選択	地域包括ケア開発看護学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
6	准教授	淵田 英津子	R4.3	選択	地域包括ケア開発看護学特講	①	R4.3.31付け転職のため辞任（4）						
				選択	地域包括ケア開発看護学特講演習	①							
				必修	特別研究	①							
合計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
6	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	14	科目	選択	14	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	21	科目	計	21	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)								
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
11 人	必修	11 科目	必修	11 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	26 科目	選択	26 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	37 科目	計	37 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{63} = \boxed{17.46} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	太田 勝正	選択	看護システム・ケア開発学特講	①	R2.3.31付け65歳で定年退職(2)	
			選択	看護システム・ケア開発学特講演習	①		
2	教授	安藤 詳子	選択	高度実践看護開発学特講	①	R4.3.31付け65歳で定年退職(4)	
			選択	高度実践看護開発学特講演習	①		
			必修	特別研究	①		
3	教授	山本 誠一	選択	医用量子科学特講	①	R4.3.31付け65歳で定年退職(4)	
			選択	医用量子科学特講演習	①		
			必修	特別研究	①		
4	教授	山田 純生	選択	リハビリテーション療法学特講I	①	R4.3.31付け65歳で定年退職(4)	
			必修	リハビリテーション療法学特講セミナー	①		
			必修	特別研究	①		
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
4	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目
		選択	7 科目	選択	7 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	11 科目	計	11 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

教育に支障がないように、ガイダンス、各指導教員による個別指導およびシラバス等により学生へ周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <医学系研究科 総合保健学専攻>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 医学系研究科（保健学）では、大学院FDを、企画運営会議（研究科執行部）を主体として企画し、学科会議・保健学専門委員会終了後に実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 企画運営会議は、8月を除いて原則として月2回開催し、その場において、大学院FDに関する事項を随時審議する。</p> <p>c 委員会の審議事項等 ・学生による授業評価アンケートに関する事項 ・大学院FDに関する事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・学生による授業評価アンケートの実施（各学期末） ・大学院FDの開催（年に春と秋1回ずつ）</p> <p>b 実施方法 ・学生による授業評価アンケートの実施（各学期末） 企画運営会議において、質問事項を検討・決定のうえ、これに基づいて無記名の授業評価アンケートを実施し、その結果を担当教員へフィードバックして授業実施方法等の改善に役立てる。 ・大学院FDの開催（年に春と秋1回ずつ） 企画運営会議において、年に各々1回ずつ全教員を対象とした大学院FDを計画し、学科会議・保健学専門委員会終了後に実施する。</p>
---

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・大学院FDの開催（年に春と秋1回ずつ）

学科会議・保健学専門委員会の後に、次のテーマで大学院FDを実施した。

「大幸地区の教育・研究に関する2021年度の取り組みについて」（2021年4月）

「留学生受け入れの課題とその支援策」（2021年10月）

いずれも、改組に伴い、新教育課程において目指すものと教育体制の位置づけ、教員の役割等について講演と質疑応答が行われ、専任教員の7～8割以上が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

昨年度実施された大学院FDに基づき、今年度から開講される授業科目の中で取り組んでいく予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

少人数のセミナーを除く、全講義科目で学生による授業評価を実施し、アンケート結果を教員にフィードバックして教育の質の向上に役立っている。実施時期は、原則として各期における最終の授業時に行う。各授業科目について、アンケートが実施されることは、事前に教員及び学生に通知する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は、集計して本研究科ホームページに掲載し、教員および学生に公開する。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

（5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。）

該当無し

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当無し

c 委員会の審議事項等

該当無し

d その他

該当無し

② 審議状況

a 審議した内容

該当無し

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当無し

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当無し

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

申請時のシラバスの内容に相当する授業科目が漏れなく開講できており、年度ごとにほぼ設置の趣旨・目的を達成していると考えられる。

今後も、さらに総合的な教育体制を整備し、本学部の一層の充実を図る。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和4年秋頃 公表予定

###### b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、6月末までに文部科学省あて提出。

・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

##### ③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度に受審し認定を受けた。令和7年度以降の受審について検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 名古屋大学大学院医学系研究科及び医学部の運営に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、名古屋大学大学院医学系研究科（以下「研究科」という。）及び医学部（以下「学部」という。）の円滑な運営を図るため、必要な事項を定める。

(教授会等の設置)

第2条 研究科に研究科教授会、研究科委員会医学専門委員会及び研究科委員会保健学専門委員会を、学部に学部教授会（以下「教授会等」という。）を置く。

(研究科教授会)

第3条 研究科教授会の構成員は、次のとおりとする。

- 一 研究科に置く基幹講座、研究科附属施設及び学部附属施設の専任教授
- 二 医学部附属病院（以下「病院」という。）の専任教授（医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター看護キャリア支援室の教授（以下「看護キャリア支援室教授」という。）を除く。）

三 研究科の総合保健学専攻の協力講座の脳とこころの科学講座の専任教授

2 研究科教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 研究科の規程等の制定・改廃に関すること（別に定める事項を除く。）。
- 二 研究科長の選考に関すること。
- 三 研究科に置く基幹講座並びに協力講座に属する病院及び附属施設の教員の人事に関すること。
- 四 研究科の重要施設等の設置及び廃止に関すること。
- 五 研究科の予算に関すること。
- 六 その他研究科の運営に関すること。

3 研究科教授会からその権限を委任された事項について審議するため、代議員会として、医学専門会議及び保健学専門会議を置く。

4 研究科教授会は、医学専門会議及び保健学専門会議の議決をもって、研究科教授会の議決とする。

(医学専門会議)

第4条 医学専門会議の構成員は、次のとおりとする。

- 一 研究科の総合医学専攻に置く基幹講座、研究科附属施設及び学部附属施設の専任教授
- 二 病院の専任教授（看護キャリア支援室教授を除く。）

2 医学専門会議は、総合医学専攻及び研究科附属施設に係る事項のうち、次に掲げる事項を審議する。

- 一 研究科の規程等の制定・改廃に関すること（別に定める事項を除く。）。
- 二 研究科長及び専攻長の選考に関すること。
- 三 研究科に置く基幹講座並びに協力講座に属する病院及び附属施設の教員の人事に関すること。
- 四 研究科の重要施設等の設置及び廃止に関すること。
- 五 研究科の予算に関すること。
- 六 その他研究科の運営に関すること。

(保健学専門会議)

第5条 保健学専門会議の構成員は、研究科の総合保健学専攻に置く基幹講座及び総合保健学専攻



の協力講座の脳とこころの科学講座の専任教授とする。

2 保健学専門会議は、総合保健学専攻に係る事項のうち、次に掲げる事項を審議する。

- 一 研究科の規程等の制定・改廃に関すること（別に定める事項を除く。）。
- 二 研究科長及び専攻長の選考に関すること。
- 三 研究科に置く基幹講座並びに協力講座に属する病院及び附属施設の教員の人事に関すること。
- 四 研究科の重要施設等の設置及び廃止に関すること。
- 五 研究科の予算に関すること。
- 六 その他研究科の運営に関すること。

（医学専門委員会）

第6条 研究科委員会医学専門委員会の構成員は、次のとおりとする。

- 一 研究科の総合医学専攻に置く基幹講座、協力講座及び連携講座の専任の教授
- 二 研究科の総合医学専攻の連携教授
- 三 研究科医学博士課程の教育を担当する教授で研究科委員会医学専門委員会が認める者

2 医学専門委員会は、総合医学専攻に係る事項のうち、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学生の厚生補導に関すること。
- 三 入学、退学、休学、留学、転専攻、除籍、懲戒等学生の在籍に関すること。
- 四 単位の認定及び修了に関すること。
- 五 学位に関すること。
- 六 研究科担当教員の選考に関すること。
- 七 その他研究科の教育に関わる事項に関すること。

（保健学専門委員会）

第7条 研究科委員会保健学専門委員会の構成員は、次のとおりとする。

- 一 研究科の総合保健学専攻に置く基幹講座及び協力講座の専任の教授
- 二 研究科博士課程の教育を担当する教授で研究科委員会保健学専門委員会が認める者

2 研究科委員会保健学専門委員会は、総合保健学専攻に係る事項のうち、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学生の厚生補導に関すること。
- 三 入学、退学、休学、留学、転専攻、除籍、懲戒等学生の在籍に関すること。
- 四 単位の認定及び修了に関すること。
- 五 学位に関すること。
- 六 研究科担当教員の選考に関すること。
- 七 その他研究科の教育に関わる事項に関すること。

（学部教授会）

第8条 学部教授会の構成員は、次のとおりとする。

- 一 研究科に置く基幹講座、研究科附属施設及び学部附属施設の専任教授
- 二 病院の専任教授（看護キャリア支援室教授を除く。）
- 三 研究科の総合保健学専攻の協力講座の脳とこころの科学講座の専任教授

2 学部教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 学部の規程等の制定・改廃に関する事（別に定める事項を除く。）。
- 二 教育課程に関する事。
- 三 学生の厚生補導に関する事。
- 四 入学，退学，休学，留学，転学，卒業，除籍，懲戒等学生の在籍に関する事。
- 五 学部担当教員の選考に関する事。
- 六 学部長及び病院長の選考に関する事。
- 七 評議員及び学科長の選考に関する事。
- 八 附属施設の長（以下「施設長」という。）の選考に関する事。
- 九 学部の教員の人事（研究科教授会の審議事項を除く。）に関する事。
- 十 学部の重要施設等の設置及び廃止に関する事。
- 十一 学部の予算に関する事。
- 十二 その他学部の運営に関する事。

（学科会議）

第9条 学部教授会に、各学科の自主性を尊重し、かつ、学部教授会の円滑な運営を図るため、学科会議を置き、前条第2項に掲げる事項の一部を審議させることができる。

- 2 学部教授会は、前項により審議された事項について、学科会議での議決をもって学部教授会の議決とすることができる。
- 3 前2項に定めるもののほか、学科会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

（教授会等の議事）

第10条 研究科長は研究科教授会、研究科教授会医学専門会議、研究科委員会及び研究科委員会医学専門委員会を、学部長は学部教授会を、医学科長は学部教授会医学科会議を、保健学科長は学部教授会保健学科会議、研究科教授会保健学専門会議及び研究科委員会保健学専門委員会を招集し、それぞれの議長となる。

- 2 研究科長、学部長、医学科長又は保健学科長（以下「研究科長等」という。）に事故等があるときは、あらかじめ研究科長等が指名した教授がそれぞれ職務を代行する。
- 3 教授会等は、構成員（海外渡航中の者、長期療養中の者及び休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。
- 4 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 前2項に定めるもののほか、教授会等の議事について別に定めがあるときは、その定めるところによる。
- 6 教授会等が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（研究科長等の選出方法等）

第11条 研究科長、学部長、病院長、評議員、学科長及び施設長の候補者の選出方法等は、別に定めるところによる。

（企画運営会議）

第12条 学部に、学部教授会と学科会議の相互の連絡を密にし、円滑な運営を図るとともに、研究科長からの諮問事項を審議するため、企画運営会議を置く。

- 2 企画運営会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

（雑則）

第13条 この内規に定めるもののほか、研究科又は学部の運営に関し必要な事項は、研究科教授会

又は学部教授会が定める。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年10月7日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年3月24日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成25年12月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成26年6月4日から施行する。

附 則

この内規は、平成29年6月1日から施行する。

附 則

1 この内規は、平成30年4月18日から施行する。

2 第6条第1項第2号で定める者は、当面の間、必要に応じて構成員となることができるものとする。

附 則

この内規は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年2月21日から施行する。

## 名古屋大学医学部企画運営会議細則

### (設置)

第1条 名古屋大学大学院医学系研究科及び医学部の運営に関する内規（平成16年4月1日制定）第12条第2項の規定に基づき、名古屋大学医学部企画運営会議（以下「会議」という。）に関し必要な事項は、この細則の定めるところによる。

### (構成)

第2条 会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- 一 学部長
- 二 病院長
- 三 評議員
- 四 学科長
- 五 副研究科長
- 六 学部長補佐のうち研究科長が必要と認めた者
- 七 総合保健学専攻の専任の教授のうち研究科長が必要と認めた者
- 八 環境医学研究所長
- 九 その他会議が必要と認めた者

### (議長)

第3条 会議に議長を置き、学部長をもって充てる。

2 議長は、会議を招集し、その議長となる。ただし、学部長に事故等があるときは、あらかじめ議長が指名した者がその職務を代行する。

### (定足数及び議決)

第4条 会議は、構成員の3分の2以上の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数の時は、議長の決するところによる。

2 議事のうち、医学専門会議又は医学科会議に附議すべきものの議決については、第2条第1項第7号及び第8号の者は、議決から除くものとする。

3 前2項に定めるもののほか、会議の議事について別に定めがあるときは、その定めるところによる。

### (意見の聴取及びオブザーバーの出席)

第5条 会議が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

### (会議の報告)

第6条 学部長は、会議の結果を必要に応じて学部教授会に報告するものとする。

2 学科長は、会議の結果を必要に応じて学科会議に報告するものとする。

### (雑則)

第7条 この細則の改廃は、学部教授会の議を経て行う。

### 附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

### 附 則

この細則は、平成21年5月7日から施行する。

附 則

この細則は、平成 22 年 3 月 24 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 29 年 7 月 19 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 30 年 4 月 18 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。